

2025 年度（法人 2 年度）の事業報告

2025（令和 7）年 1 月 1 日から 2025（令和 7）年 12 月 31 日

特定非営利活動法人ペット終活サポートネット宮城

1 事業実施の概要

法人設立から 2 年目となり、支援対象と支援内容をより明確にしながら、次の 2 点の目標を掲げて事業を展開した。

1. 特に高齢者や単身者の孤立を防ぎ、未然防止に努め、ペットが取り残されないようにする。
2. いくつになってもペットと安心して暮らせる自助・共助・公助のしくみを探り、ネットワークを広げる。

この目標達成のために、次の 3 点をアプローチの切口とした。

- ①知る・知らせる：現状と自助・共助・公助の啓発活動と勉強会→主に（1）ペット終活の普及啓発事業
- ②備える・飼い主の自助をサポート→（2）ペット終活個別の相談・支援事業
- ③つながる・つなげる：共助・公助のサポートシステムづくりの第 1 歩→今年は「ペット共生勉強会」

3 月から飼い主とペットの相談を本格的に始め、「早め備え」の提案や情報提供をしてきた。また同時に、（4）ペットの行き先確保支援事業の一環として、「ペットの里親探し受託事業」も開始した。

実際の相談は、事前の備えというより、飼い主が死亡、認知症発症、施設入所などで取り残されたペットの処遇や保護依頼が 8 割という現状であった。

未然防止を掲げる法人としては、「終活＝死ぬ準備」というマイナスイメージが多い現状や、高齢者自身が要支援・要介護状態になってから、事後対応となりがちな現状を受け、特にミドル世代や社会課題解決活動に参加したいという方々へのアプローチを広げた。その中心となるのが「ペット共生勉強会」であり、動物関係者以外にも、福祉や介護関係者など、問題意識の高い方々とのネットワークができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) ペット終活の普及啓発事業

主に「自主企画イベント」と「他団体主催イベント」への参加により、広報活動を実施し、活動への協力・賛同者を広げた。特に①「ペット共生勉強会」の定期開催により、多様な職種や世代の賛同者や協力者が飛躍的に増加した。一方で、月にイベントが 3～4 つと目白おしとなり、チラシ作成から集客・開催までの業務が多忙を極めた。

【自主企画イベント】

① 「ペット共生勉強会」

6 月から毎月 1～2 回の頻度で参加自由型の勉強会を開始した。参加者は各回約 10 名～50 名（研修会は、オンラインやアーカイブ配信希望者も含む）。飼い主よりも介護や人の終活現場に携わる方々、病院関係者、NPO 団体など、それぞれの立場から問題意識を持っている方々が、自分の関心のある内容に応じて参加するスタイルでの勉強会。

内容は、参加者のニーズを聴きつつ、飼い主向けの自助に関わる内容や、共助・公助に関わる内容、各現場からの現状報告、他県の先進事例の紹介や情報交換、講師を招いての勉強会、関係事業者との情報交換会など全 9 回（オンラインのみや立ち上げ会含む）実施。

▶ 先行事例現場見学会「「保護犬・保護猫の行き先確保支援システムの先進事例を学ぶ」

- 7/9 丸森町（保護猫カフェまるもふ、猫神社候補他）13 名
- 8/6 仙台市内（猫用高齢者住宅ウエルライフガーデン、ペット共生グループホーム）4 名、
- 8/20 盛岡市（認定 NPO 法人「もりねこ」、老ねこケアホーム「しっぽのおうち」）5 名



▶研修会型：勉強会仲間からの現状報告、先行事例調査発表会、講師を招聘しての研修会など、広く公開しての勉強会を実施（参加者はオンライン、オンデマンド配信含む）

- 9/21「現場の声を聴く会」 12名
- 10/19先進事例に学ぼう「宮城にもあったらいいなを語る会」14名
- 11/24「高齢者とペットのサポート最前線」（安野舞子氏講演）／シンポジウム（宮城の活動報告3名） 54名
- 12/27お金とペットと将来を考える（地元の事業者との交流会あり） 25名



特に10月の研修会以後、講師の安野先生より、行政との連携好モデルとして滋賀県甲賀市の取り組みをご紹介いただき、2026年2月にはその推進者（滋賀県こうが人福祉動物福祉協働会議：田中ヒロヤ氏）を迎えての勉強会も実現した。

この一連のペット共生勉強会は、「みやぎ生協福祉活動助成金2025上期」より助成金をいただき、充実した講師も招聘することができた。

②「シニア会」

4月より、毎月1回開催。飼い主又はペットがシニアの方々向けの情報交換会。事務所にて。参加者平均5名。自分の終活やシニアペットの健康ケアなど、参加者のそのときの状況に応じた井戸端会議のようなものとして継続してきた。

開催場所は当法人の菊池理事が運営するニャンワンクラブ内でもあり、現場のリアルな話を交えながら、毎回時間が過ぎても話が尽きない状態だった。



③ペットグリーフケア「ともしびの会」

7/5、9/月不定期開催開始。NPO法人うみとそらと共催。参加者は各回1～3名。ペットへのグリーフは人のグリーフより理解されにくいという現状から、今後も3か月に1回程度、グリーフワークなども導入しながら実施していく予定。



④「ペットと人のしあわせ結び」童謡チャリティコンサート

10/19仙台童謡愛好会「HAPPY RABBIT」協力のもと実施。ペットの有無に関わらず音楽を通してのアプローチ。ファミリー、大人向け共に満席で、大人向けは特に命と別れなどの歌もあり、涙を流す方もいて好評だった。午前と午後2回開催合計170名



⑤緊急時命を守るワークショップ

3/9 参加者のニーズに合わせて緊急時の備えを考えた。ペット連れ可の会場で開催したが、ペット連れはいなかった。参加者8名

【他団体主催イベント参加】

犬向け、猫向け、ペット関係のイベントやマルシェ、相談会への参加など計8回出展し、啓発活動を行った。

(2) ペット終活個別の相談・支援事業

- ①「飼い主サポート事業」のユーザー登録は、仕事を引退、社会とのつながりが薄くなった高齢者の方などにおすすめした。現在は生き生きコース1本。安心コースは、終生預かりや定期訪問などの事業と連携した場合を想定している。
- ② 電話相談だけでつながらない方もいるが、基本的には家庭訪問や面談で、個別のペット事情を伺いながら対応している。

(3) サポート法人等との連携・協働事業（予算・決算なし）

今年度は試行的に活動したのみで、連携事業者との協働事業とまではなっていない。

(4) ペットの行き先確保支援システム整備事業

6月から、行き場のないペットの相談を受け、緊急の場合保護し里親を探す活動を開始した。里親探しの専門事業者や預かりボランティアさんと連携しつつ、法人は、ペットの保護がメインではなく、飼い主さんに未然防止の対策をとってもらうことを独自の里親探しも模索中である。

① ペットの里親探し支援事業

飼い主さん向けには、里親を探すことを支援する事業として、「緊急保護型」、「事前契約型（人の終活契約との連携型もあり）」の大きく2つのタイプを整備した。飼えなくなった場合の行き先が、不確実な一般人の里親よりも、専門の終生預かり施設の方が安心と考える方もいるので、専門事業者との連携は、今後拡大していく予定である。

緊急保護型が21件中17件で8割。事前契約型が4件。

犬猫保護頭数28匹（猫25匹、犬3匹）。犬は3匹無事里親が見つかったが、猫は、高齢、病気、人なれしていない、1匹飼いでないと難しい、譲渡請負事業者の受け入れ条件があるなどにより、なかなか次の行き先が確保できない。現在、里親募集の事業所や預かりボランティア宅に分散しつつ、9匹の行き先が確保できていない（12月末下現在）。ペットのストレスを考慮し、保護頭数をためないようにして預かりボランティア宅を随時開拓している。

また、特に保護団体が譲渡したが高齢者や単身者について、飼い主の支援や連絡体制を強化しつつ、「ずっと預かり制度」を整備して受け入れ先を開拓している。

② ペット里親バンク登録者の確保

広報に手が回らないこともあるが、猫の預かりや里親希望は少なく、犬の預かりや里親希望は現在待機している状態である。

③ ペットと人が高齢になっても安心して共生できる住まいについて

ペット共生勉強会で調査しはじめており、高齢になってもペットと別れずに住むための住まいの在り方について、次年度はさらに研究・モデル事業を実施する予定である。